



いよいよ年の瀬…ウーツ

タイトル通り、もうこんな時期になってきたのですね。時間の経過というのは年齢を重ねるごとに加速度がつくような気がします、万人に公平なのでしょうね。まあ、年が変わっても結果的に何も変わらない…ような気はしますが。動物たちも、夏毛から冬毛へと衣替えしたり、カバが水から上がり陸上で寝そべる姿が増えたりと、少しずつ動物園は冬の装いに変わりつつあります。そんななか、動物園では初めてのオリジナルカレンダーをつくってみました。もちろんPRも兼ねてますが、特に今年はかわいい赤ちゃんたちが生まれていますので、少しでもその姿を見てもらいたいと思ってつくりました。一家に一枚ぜひいかがでしょうか？1枚300円で販売していますのでよかったらお求めください。



《ひなたぼっこのカバ母娘》



《冬に備えたアナグマカップル》



《カレンダー-2014》

さて、鬼が笑う来年（平成26年）の話題をもう一つ。今年（平成25年）の2月に「かみね・

おもしろZOOサロン」を初めて開催しましたが、来年もやっちゃいます、という話題です。今年、動物園ライターの森由民さんに、エンリッチメントを軸に、全国各地の動物園の取り組みを紹介して頂きました。で来年はちょっと趣向を変えて、全国から地元を目を転じよう、ということで「どうぶつ異種対決！ウミウVS日立の淡水魚」というテーマでやろうと思います。

ご存じのように（ご存じでないかも）日立市の鳥は「ウミウ」です。全国各地で行われている鵜飼漁法で使う鵜は実は日立市で捕獲したものです。ウミウは渡り鳥で、千島列島や北海道沿岸から、秋から冬にかけて、越冬のため本州沿岸や九州地方へ向けて飛来します。この日立市の沿岸部にも、V字形や1直線になって集団で飛んでいく様が見られますが、長旅のため時々羽を休めるウミウの習性を利用して古くから日立市（旧十王町）の伊師地方で捕獲が行われてきました。オトリの鵜を海岸の岸壁に配し、その姿に誘われてやってきた鵜を、隠れて観察していた捕獲者がカギ棒を肢にかけて引きずり込むのです。



《当園のウミウ》

猟期は決まっており、今シーズンはこの12月でおしまいになります。先日捕獲者の根本さんにお話を伺ったら、もうこの時期になるとかなり飛来数は減るようですが、ひたすらじっと待ってるその捕獲法、なんだかホンワリした気分になるのは私だけでしょうか。黒い色をしたウミウは一見、カラスの仲間に見えますが、あれでも立派なペリカンの仲間なのです。かみねにも以前モイロペリカンがいましたが、この鳥たちの特徴は、のどに伸縮できる袋があることです。魚を何匹も入れておくことができる伸縮袋ですが、鵜飼いで使う場合は、のどの下の方をひもで縛っておきせっかく鵜呑みにした魚（鮎）を吐き出させるという、おとりで捕えられたかと思ったら捕った魚を吐き出される、という何ともな展開のウミウさん達、でも鵜匠さんのところでは大切に飼われているのでしょう。



《吸い込まれそうなコバルトブルーの青い眼》

そうした面白いウミウの話と、一方でウミウやカワウなどに捕まってしまう側の話、つまり日立を始め県北地方の川や池などに生息するカジカやイトヨなどの珍しい淡水魚の話が今回のZOOサロンの内容です。ウミウのほうは、実際に捕獲している根本さんに、また淡水魚のほうは、元茨城県内水面水産試験場の山口さんをお願いします。お二人の話に加え、お客様や動物園の獣医や飼育員を入れざっくばらんに座談会形式で展開できたらいいな、と思っていますので、どうぞ関心のある方ない方どなたでもご参加下さい。そうそう、珍しいカジカの唐揚げ試食なども予定しています。日程は平成26年2月22日（土曜日）13時30分からですが詳しいご案内は後日お知らせします。



《これがカジカだ》

「どうぶつのくに」連載中の「あっかみね動物園だ！」VOL. 8
よかったらこちらからどうぞ [「どうぶつのくに」](#) (新しいウインドウが開きます)

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)

[平成29年](#)

[平成28年](#)

[平成27年](#)

[平成26年](#)

平成25年

[平成25年12月](#)

[平成25年11月](#)

[平成25年10月](#)